別添１

在宅でのサービス提供の支援事例**【就労継続支援Ａ型①】**

＜支援において特に留意した点＞

<u>○就労へのモチベーションを維持できるように支援</u>

<u>○施設内の仕事の延長として自主生産品の販売促進に寄与できる作業を提供</u>

<u>○在宅での訓練を継続するために家族関係にも留意して支援を実施</u>

１　在宅利用者に対する支援内容

（１）　生産活動（賃金・工賃につながる活動）の提供

クッキーの販促用具（販売用看板、ポップ、値札カード、チラシ、ポスター、サンクスカード等）の作成を行っている。過去の販促用具を提供し、季節や販売場所に応じたものにアレンジして独自の販促用具を作成する。一日のおおよその制作数を提示し、達成に努める。

（２）　就労支援の実施

【作業課題】

・自己消費用のクッキー製造や試作品作りを行い、技術の維持を図っている。

・朝夕に電話で施設内の作業の状況を伝え、施設内の作業と一体感が持てるようにしている。

【学習課題】菓子製造や食品衛生に関する書籍を提供、菓子製造に対する興味の維持や知識の向上を図っている。

【生活課題】

・ストレッチ等の時間を設け運動不足にならないようにしている。

・家事等を積極的に行うように促し、生活リズムが崩れないようにする。

（参考）ある利用者の日課

9:00～ 検温　体操（ストレッチ、ラジオ体操） 電話連絡	9:30～ 作業（販促用具の作成）※適時休憩	12:00～ 昼食	13:00～ 作業（販促用具の作成またはクッキー試作） ※適時休憩	15:30～ 作業または学習	16:00 終了

２　利用者の体調管理に関する支援

体調の状況、検温結果の報告を受けて日々記録している。

３　事業所が実施した相談支援（対応している相談内容等）

家族関係でのトラブルの相談。

４　家族や関係機関との連携

・家族に対して在宅で行う作業等の内容について理解を促している。

・家族からの相談も積極的に受けている。

５　その他

利用者の状況によって在宅における作業が難しい場合は、感染予防に留意しながら通所による作業に従事している。

在宅でのサービス提供の支援事例【**就労継続支援Ｂ型①**】

＜支援において特に留意した点＞

<u>○生活リズムを整えるために予め作業時間を設定</u>

<u>○直接的な支援ができないため、写真の送信等で視覚的に作業状況を確認</u>

<u>○製品の回収と資材の配達時に体調等の確認</u>

１　在宅利用者に対する支援内容

（１）　生産活動（賃金・工賃につながる活動）の提供

在宅において軽作業（筆の縫い作業）を実施。支援者が製品の仕上がりを直接確認ができないため、仕上がった製品や不具合のあった製品の写真をLINEで送信してもらい、視覚的に確認している。支援が必要な方についてはLINEの操作方法を教示、週１～２回程度職員が自宅を訪問し、完成品の回収と、資材の配達を行い、必要に応じて検品や玄関先で作業支援等を短時間で実施している。

（２）　就労支援の実施

【生活課題】在宅訓練では、生活リズムを整えることも重要な支援として取り組み、作業開始時間（9時30分）にあわせて日課を組み立てた。資材の配達時は定期的に利用者と顔を合わせる機会になり、利用者の状態の確認などを行うことができている。在宅の作業を導入するまでは、日々何をすればいいのか分からないといった声があったが、作業があることで生活のメリハリも出たとの声が多く聞かれている。

（参考）ある利用者の日課

9:00 体調確認（主に電話）	9:30～ 筆作業	12:00～ 昼休憩	13:30～ 家事、散歩等	16:00～ 作業進捗確認（電話・LINE）

２　利用者の体調管理に関する支援

日々の体温、体調をLINE等のSNS、電話等を利用し把握した。訪問時に体調面の支援を行っている。

３　事業所が実施した相談支援（対応している相談内容等）

・体調面、心理面に関する不安、新型コロナウイルスの情報に関すること、通所再開の見通しに関する不安などについて相談している。

・在宅訓練になったことで家族との距離が近くなり、家族との関係についての相談等もあった。

・家族からは通所再開についての見通しや作業終了後の過ごし方についての相談があり、他の利用者の過ごし方などを伝えながら助言を行っている。

４　家族や関係機関との連携

・家族には作業に必要な道具を置くことや、作業時間を決めて実施する旨などを伝え協力を求めた。

・グループホーム利用者の場合は、ホームの部屋内に作業道具を置き、作業ができる環境の整備を行う協力を得た。

５　その他

自宅にて作業を実施している方は10名程度。

在宅でのサービス提供の支援事例**【就労移行支援・就労定着支援③】**

＜支援において特に留意した点＞

<u>〇障害特性にあわせたトレーニングを在宅でも行えるように工夫</u>

<u>〇在宅での訓練においても周りの利用者の様子が分かり安心できるように支援</u>

<u>〇日々の体調、気分等を詳細に把握して、健康管理に心掛けるように支援</u>

１　在宅利用者に対する支援内容

（１）　生産活動（賃金・工賃につながる活動）の提供

特になし

（２）　就労支援の実施

課題の提示、提出には Dropbox を利用する他、利用者が孤立しないよう ZOOM を利用して朝礼・夕礼を全員で行う。

【作業課題】事務ワークサンプル、勤務先に関係する情報の検索・PDF 化・整理、仕分け・丁合作業

【学習課題】「認知機能・職業能力・対人関係スキル訓練指導マニュアル」の課題を使用。利用者の障害状況等に合わせて複数の問題を提示。作業系の就職希望者に KYT（危険予知訓練）の実施、絵を見て危険の発見・対策などを作成。タイピング練習の実施、指定時間でミスなく入力できないと次のステップに進まない課題になっており、パソコン初心者やミスが多い利用者に有効。

【生活課題】身体に麻痺がある利用者については、ストレッチや歩行などの訓練を組み込む。必要に応じてスーツ・雨具などの更衣訓練なども家族の協力のもと実施。

（参考）ある利用者の日課

9:30～12:00	13:00～16:00
zoom 朝礼　→　求人検索と一覧作成　→　認知訓練課題	職業訓練課題　→　カード仕分け　→　日報記載　→zoom 夕礼

２　利用者の体調管理に関する支援

・検温の結果と体調の定期報告を実施する。

・日報作成。作業内容・自身の振り返りと感想（体調面も含む）・イライラ度・疲労度・進捗を記入し、支援者がコメント。

３　事業所が実施した相談支援（対応している相談内容等）

診察等がある方については、相談時に状況を確認する。

４　家族や関係機関との連携

日報を確認して、家庭生活でストレスが溜まっている場合は相談支援事業所にも協力依頼する。

５　その他

・就職活動支援として求人検索と一覧表の作成。履歴書・職務経歴書の作成支援を行っている。個人情報が多いため、Dropbox を利用して内容確認など行っている。

・在宅支援を行っている他事業所の例を参考にしている。（http://voccouncil.org/home_cases.html）